巻頭言

編集長就任にあたって

会員を巻き込んだ魅力ある会誌を目指して

五十嵐悠紀 | お茶の水女子大学

このたび7代目の会誌編集長に就任することとなりました．歴代の編集長は，初代編集長の石田晴久先生（Vol.39 No.1）から始まり，和田英一先生（Vo.43 No.4），川合慧先生（Vol.47 No.4），中島秀之先生（Vol.51 No.6），塚本昌彦先生（Vol.55 No.5），稲見昌彦先生（Vol.59 No.4）と錚々（そうそう）たる顔ぶれです[☆1]．

私はというと，2014年，5代目塚本先生のもとで会誌編集委員になったことをきっかけに，会誌を隅々まで読むようになりました．私自身の情報処理分野についての知識が広くなったことに加えて，月刊の会誌が発行される裏側では，記事やコラムの選定や企画，人選，執筆者への依頼に，届いた原稿の閲読，そしてレイアウトを始め多くの過程で支えてくださる事務局，本当にたくさんの人の力で成り立っていることを知りました．塚本先生の「会誌の封を開けてもらうためには」との掛け声に，編集委員みんなでさまざまな企画を提案していった編集委員会は毎月楽しい時間でもありました．

6代目の稲見先生になってからは，新世代企画委員として会誌にかかわらせていただきました．多くのデジタル化に挑戦された稲見先生．会誌のコンテンツがデジタル化しただけでなく，委員同士のやりとりもSlack中心になり，スレッドとスタンプを用いて，月1回の委員会を待たずにスピード感をもって記事を届けられるようになっていくのを肌で感じました．

私は新世代企画委員になったことをきっかけに「ジュニア会員にはどのような情報が届いているのか」を知りたくて，当時小学生の長男にジュニア会員になるように勧め，入会させました．ジュニア会員に届くメールに目を通すほか，担当していた「先生，質問です！」では，ジュニア会員でも理解できる内容になっているか，掲載前に息子に読ませて確認したりもしていました．また，私に届いた会誌をリビングに置いておき，どの記事に興味がある

☆1 歴代編集長の「就任にあたって」の記事掲載号です．ぜひ読んでみてください．

か，様子を見たりもしていました．最近では，会誌がデジタル化したにもかかわらず，会誌の表紙にあるQRコードをスマホでスキャンしているのを見たことがないので，なぜアクセスしないのかを息子に聞いてみたところ，「スマホで閲覧すると時間制限があるから」とのこと．多くの小中学生がペアレンタルコントロールを使った端末から閲覧していると想定できます．どんなに会員に役立つ情報を載せても，本当に届けたい相手に届けるためには，読者となる対象ユーザのデジタルツールの使い方や1日の時間の使い方なども考慮しなくてはいけないことも身をもって感じました．

私の研究分野としての専門は「ヒューマンコンピュータインタラクション」です．提案する技術やアルゴリズムの新規性もさることながら，その技術を対象ユーザに届けるためにはどうしたらいいか，対象ユーザにとって使いやすいものになっているか，はたまた対象ユーザの世界を変えることができるかを考える分野でもあります．

私はこれまでの編集長の意思を引き継ぎながらも，本会会員にとってより魅力的で満足度の高い会誌を目指していきたいと思います．本会は，小学生から大学3年生まで入ることのできるジュニア会員，勉学・研究にと励む学生会員，大学教員や研究所などのアカデミア職の方，企業のエンジニア，教育現場で情報教育を担当される方，など幅広い層から構成されています．

満足度はそれぞれの立場によってもちろん異なります．読者にとっては，必要な情報が分かりやすく解説されていること，欲しい情報にアクセスしやすいことや，フィルターバブルにならないよう多様な情報技術に触れる機会の創出も大事でしょう．読者の年齢層や環境，ポジションによっても欲しい情報は異なります．また，記事を執筆していただく著者にとっては，執筆・掲載で終わりではなく，掲載されたことが次につながるような貴重な機会となることで満足度が上がるのではないかと思います．さらに，会誌の編集に携わる委員にとっては，楽しみながらも，やりがいのある現場であることも大事かと思います．そのような多様な視点を意識して，会誌の紙面づくりをしていきたいと思います．

そのために大事なのは，みなさまからの「フィードバック」です．これまでも「会員の広場」コーナーでのご意見・ご感想やモニタコメントをいただいてきました．そのほかにもSNSでお寄せいただいたフィードバックにも目を通しています．改善要望はもちろんのこと，良かった点や続けてほしい取り組みについてもぜひ声を届けていただけると私たちは魅力ある企画を続けていくことができます．また，そういった生の声だけでなく，Twitterのリツイートやnoteの閲覧数，「情報学広場」からの記事ダウンロード数などからも，どの記事が人気なのかを私たちは知ることができています．また，そういったフィードバックをもとに次の企画を考えていっています．よかった記事にはぜひ「イイネ」をしてみてください．

また，初の女性編集長でもあるということで，情報系の女性比率の改善などにも貢献していきたいと思っております．昨今は大学や企業，さまざまなところで女性活躍推進が叫ばれていますが，情報は他分野と広く融合していける分野でもあり，男女関係なく活躍できる場が多くあります．ジュニア会員にも情報分野の魅力を届け，また情報とかかわる他分野の仕事をしている方にも，もちろん情報分野のみなさまにも，毎月の会誌発行日を楽しみにしてくださるような紙面づくりをしていきますので，よろしくお願いします．

（2022年2月21日）

■五十嵐悠紀（正会員）　yukim@acm.org

2010年東京大学工学系研究科博士課程修了．博士（工学）．日本学術振興会PD・RPD，明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科専任講師，准教授を経て2022年お茶の水女子大学理学部情報科学科准教授．IPA未踏PM兼任．